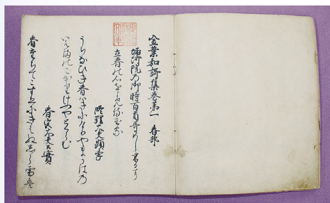


## 伝二条為明筆『金葉和歌集』2帖



『金葉和歌集』は、白河法皇(1053-1129)の命により源俊頼(1055-1129)が撰進した第5番目の勅撰和歌集である。和歌表現への志向が大きく変わる和歌史の転換点に成立した『金葉和歌集』は、完成に至るまでに院の下命による2度の差し戻しと撰集方針の変更があり、撰進時期の差異により伝本は初度本・二度本・三奏本の3つの形態に大別されるが、実際にはそれぞれの撰集途上に転写されたと覚しい総歌数の異なる多種の伝本が伝わっている。そのため、『金葉和歌集』の研究は、伝本相互の比較検討によって現存する多様な伝本それぞれを撰進の過程に結びつける形で進められてきた。正宗敦夫文庫には13点の古写本が揃い、本学資料を欠いては『金葉和歌集』の学術的理解は得られない程の充実度を誇る。

伝二条為明筆本は総歌数665首、最も流布した二度本の中でも精選された最終稿本系の伝本と考えられており、『新編国歌大観』『新日本古典文学大系

金葉和歌集・詞花和歌集』の底本に採用され、拠るべき本文として広く参観されている。

書誌は以下の通り。函架番号I-14〔南北朝期〕写2帖(二条為明(1295-1364)筆の確証はない)。装丁は列帖装。唐草文雲母押斐紙表紙(16.0cm×14.1cm)、左肩題簽「金葉和歌集」と墨書。見返しは金銀切箔散し。料紙は斐楮交流紙。每半葉8～9行書き(和歌1首2行書)。上册は巻一春部から巻六別部まで、墨付92丁、遊紙首1丁・尾2丁。下冊は巻七恋部上から巻十雜部下まで、墨付87丁、遊紙首1丁、尾なし。奥書はないが、両冊巻尾に「正徹(花押)」の署名と、「清岩」「正徹」の方形朱印が捺され、室町期を代表する僧侶歌人正徹(1381-1459)の愛蔵であったことが知られる。

なお、本書は赤羽淑名誉教授による解題を付して福武書店(現ベネッセコーポレーション)から写真版が刊行されている(『金葉和歌集 上・下』福武書店1977)。(文学部准教授 海野圭介)